

(学習の目的) この章の構成を説明します。

(1) IS-LM 分析とは

- IS-LM 分析では、()と()を、() (Y)と() (r)でむすびつけて分析する。
- 「I」…() (Investment)
- 「S」…() (Saving)
- 「L」…() (Liquidity)
- 「M」…() (Money Supply)
- 「財政政策」や「金融政策」などの経済政策の効果を分析するのに役立つ。

解答版は
グラフ掲載

(2) 構成

(基礎編)

- 【3-01】 IS-LM 分析でまなぶこと
…「IS」と「LM」の意味 / 国民所得と利子率 / 仮定 / 政策の効果をみる
- 【3-02】 IS 曲線
…IS 曲線 / IS 曲線の形状 / IS 曲線の導出 / IS 曲線とグラフの領域 / IS 曲線のシフト / IS 曲線の導出(グラフ)
- 【3-03】 LM 曲線
…LM 曲線 / LM 曲線の形状 / LM 曲線の導出 / LM 曲線とグラフの領域 / LM 曲線のシフト / IS 曲線の導出(グラフ)
- 【3-04】 IS-LM 分析
…IS 曲線と LM 曲線の交点 / IS-LM 分析の利用目的 / IS 曲線のシフト / LM 曲線のシフト / グラフの領域 / 不均衡の調整

(応用編)

- 次に、IS-LM 分析を用いて「財政政策」や「金融政策」の効果をみる。
- 【3-05】 財政政策と金融政策(1) クラウディング・アウト
…完全雇用国民所得 / 財政政策 / クラウディング・アウト / 金融政策 / 縮小的な財政政策 / 縮小的な金融政策 / 財政・金融政策 / 国債と財政政策
 - 【3-06】 財政政策と金融政策(2) 流動性のわな
…さまざまな IS 曲線と LM 曲線の形状 / 流動性のわなとは? / 流動性のわなが発生する理由 / 金融政策の効果 / 財政政策の効果 / 流動性のわなとクラウディング・アウト / 流動性のわなとピグー効果
 - 【3-07】 財政政策と金融政策(3) さまざまなケース
…投資の利子弾力性がゼロ / 古典派の貨幣数量説 / 公債の資産効果
- (演習編)に続く。

左側のこの欄には、()内のキーワードを示してあります(この無料版では空欄)。

★は
応用レベル
の内容です。

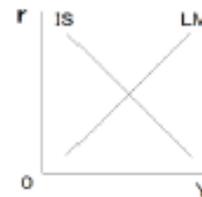
右側のこの欄には、理解を深めるために役立つと思われる、ちょっとしたコメントを示してまいります(この無料版では空欄)。

IS-LM 分析でまなぶこと

(学習の目的) IS-LM 分析では、財市場と貨幣市場について、政策の効果を分析します。

(1) 「IS」と「LM」の意味

- 「I」…() (Investment)
- 「S」…() (Saving)
- 「L」…() (Liquidity)
- 「M」…() (Money Supply)



(2) 国民所得と利子率

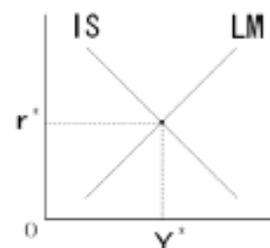
- IS 曲線…() を均衡させる() と () の組み合わせを示す。
- 財市場の均衡→() と () が一致 ($I=S$)。-----
- LM 曲線…() を均衡させる() と () の組み合わせを示す。
- 貨幣市場の均衡→() と () が一致 ($L=M$)。

(3) 仮定

- () は一定)と仮定する。
- () 部門)は無いと仮定する。

(4) 政策の効果を見る

- IS 曲線と LM 曲線が交わる点は、「財市場」と「貨幣市場」が同時に均衡する「国民所得」と「利子率」の組み合わせを示す。
- 「財政政策」→() がシフト。
- 「金融政策」→() がシフト。
- 経済政策が目標とする国民所得としては、失業が発生しない状態である() をとりあげることが多い。



(学習の目的) IS 曲線は、財市場が均衡する国民所得と利率の組み合わせをあらわします。右下がりの形になる理由をまなびます。

(1) IS 曲線

- IS 曲線は、() を均衡させる
() と () の組み合わせをあらわす。
- 「I」は()、「S」は() をあらわす。

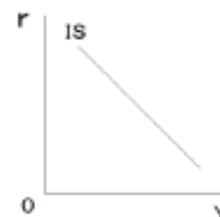
[$I=S$ が財市場の均衡となる理由]

生産をすると、生み出した付加価値が、回りまわって「所得」として手元に分配される。この所得を支出するときに、「消費」せずに「貯蓄」しておいたものが「投資」にまわると考える。

- 「投資」や「貯蓄」は、() の影響を受ける。
- 総需要を構成する「投資」は() に影響を与える。
- このように、「国民所得」と「利率」を用いる「IS 曲線」によって、「投資」と「貯蓄」をふくめた「財市場」を説明することができる。

(2) IS 曲線の形状

- 一般的に「IS 曲線」の形状は
() となる。
- この他に、「水平」の場合や、「垂直」の場合もある。



(3) IS 曲線の導出

(仮定)

- 「投資」は() の () と仮定する。
- ← (理由) 利率が低いほど、投資に必要な資金が借りやすくなる。

(右下がりとなる理由)

- 「利率が低下」すると、「投資が()」する。
→「総需要が()」→「均衡国民所得が()」。
- 「利率が低下」→「国民所得が()」となる。
→「IS 曲線は右下がり」。

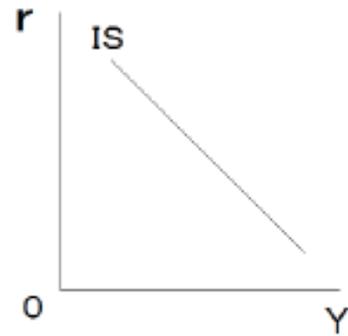


(4) IS 曲線とグラフの領域

(右下がりの IS 曲線の場合)

IS 曲線よりも右上のエリア
→ ()。

IS 曲線よりも左下のエリア
→ ()。



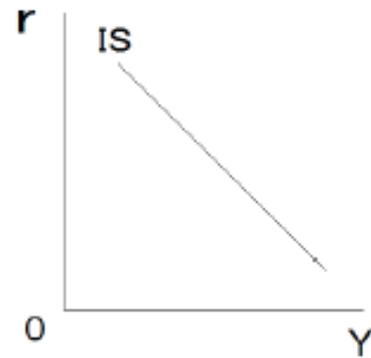
(5) IS 曲線のシフト

財政支出を増加
→ IS 曲線は ()。

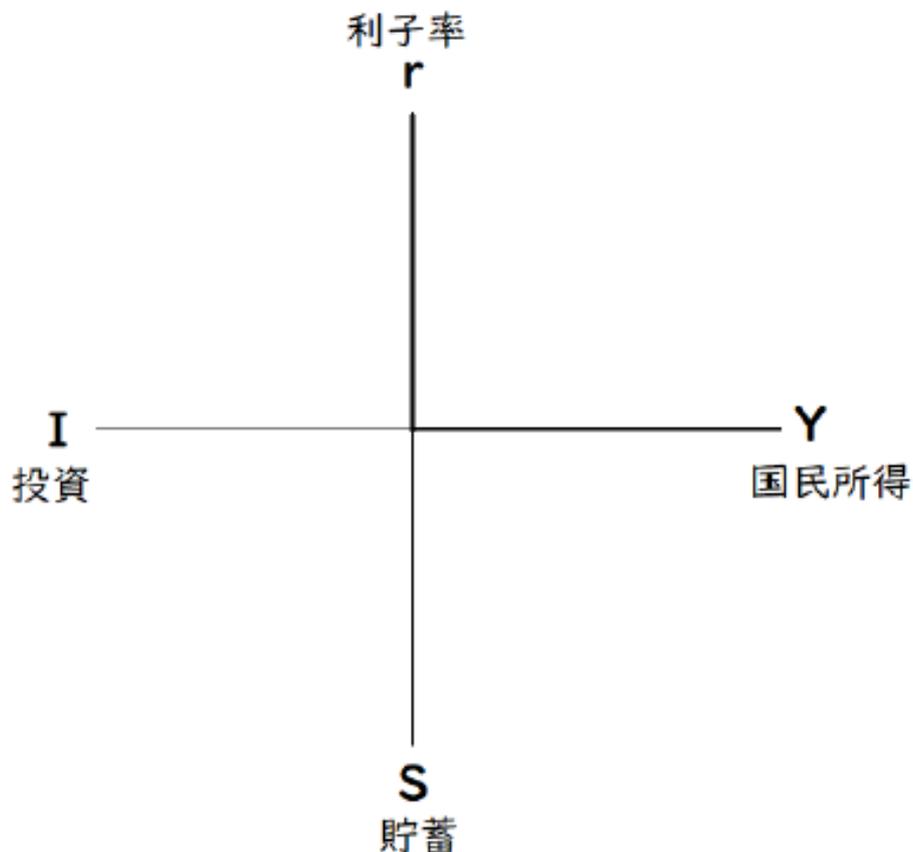
減税
→ IS 曲線は ()。

財政支出を減少
→ IS 曲線は ()。

増税
→ IS 曲線は ()。



※(6) IS 曲線の導出(グラフ)



(学習の目的) LM 曲線は、貨幣市場が均衡する国民所得と利率の組み合わせをあらわします。右上がりの形になる理由をまなびます。

(1) LM 曲線

- LM 曲線は、()を均衡させる
()と()の組み合わせをあらわす。
- 「L」は「貨幣需要」、「M」は「貨幣供給」をあらわす。

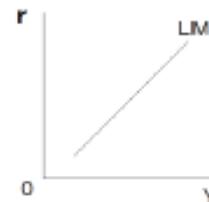
[L=Mが貨幣市場の均衡となる理由]

貨幣需要と貨幣供給が一致したところで、貨幣の需給量と貨幣のレントナルコストとしての()が決まる。

- 利率が変化→「投資」が変化→()に影響。
- ()…利率は()に影響を与えると考える。
- また、貨幣市場は、()と一緒に考える必要がある。
- このように、「国民所得」と「利率」を用いる「LM 曲線」を用いることで、「貨幣市場」と「債券市場」をあわせて説明することができる。

(2) LM 曲線の形状

- 一般的に「LM 曲線」の形状は()となる。
- この他に、「水平」の場合や、「垂直」の場合もある。→「ケインズ派」と「古典派」で考え方が異なる。



(3) LM 曲線の導出

(仮定)

- 貨幣の「取引需要」と「予備的需要」は()の()と仮定する。
- 貨幣の「投機的需要」は()の()と仮定する。

(右上がりとなる理由)

- 「国民所得が増加」
 - 貨幣の「取引需要や予備的需要が()」
 - 需要が供給を上回り、「貨幣市場は()」に
 - これとは反対に、「債券市場は()」に。
- これは債券に対する需要が少ないことあらわす
 - 「債券価格は()」。
- [仮定]()は()の()であるため、
 - 「利率は()」。
- 「国民所得が増加」→ 「利率が()」する
 - 「LM 曲線は右上がり」。

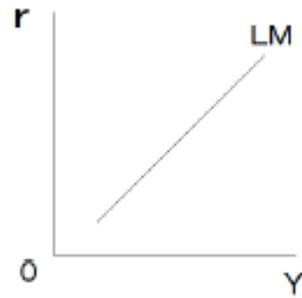


(4) LM 曲線とグラフの領域

(右上がりの LM 曲線の場合)

LM 曲線よりも左上のエリア
→ ()。

LM 曲線よりも右下のエリア
→ ()。



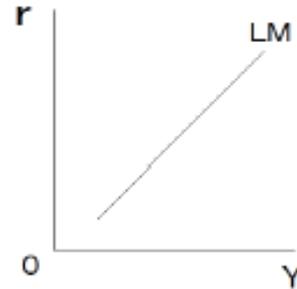
(5) LM 曲線のシフト

マネーサプライを増加
→ LM 曲線は()。

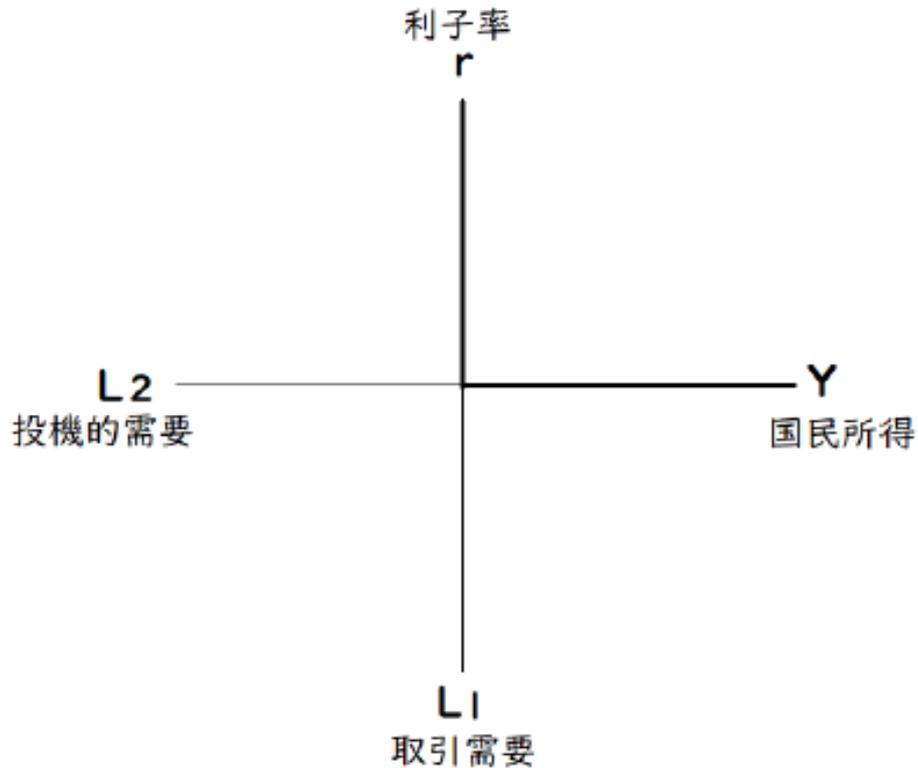
物価が下落
→ LM 曲線は()。

マネーサプライを減少
→ LM 曲線は()。

物価が上昇
→ LM 曲線は()。



※(6) LM 曲線の導出(グラフ)

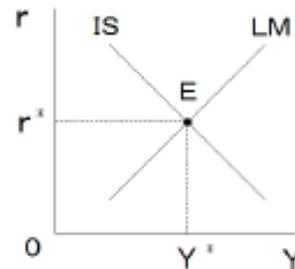


IS-LM 分析

(学習の目的) IS-LM 分析では、財政政策や金融政策の効果を分析することができます。ここでは、曲線がシフトする理由をまなびます。

(1) IS 曲線と LM 曲線の交点

- IS 曲線と LM 曲線の交点では、
()と()
が同時に均衡する()と
()の組み合わせが示され
る。



(2) IS-LM 分析の利用目的

- 財政政策や金融政策によって、IS 曲線や LM 曲線はシフトする。
 IS-LM 分析によってこれらの政策の効果を分析することができる。

(3) IS 曲線のシフト

- 「政府支出」や「租税」を変化させる政策を()という。

(不景気の時)

- 一般的に、不景気ときは景気を刺激するために、政府支出の()や()などの「拡張的財政政策」をおこなう。

→ IS 曲線は()。

(景気過熱時)

- 景気が過熱したときは、「政府支出」の()や()などの「縮小的財政政策」をおこなう。

→ IS 曲線は()。



(4) LM 曲線のシフト

- 「マネー・サプライ」を変化させる政策を()という。

(不景気の時)

- 一般的に、不景気ときは景気を刺激するために、「マネー・サプライ」を()させる「拡張的金融政策」(金融緩和政策)をおこなう。

→ LM 曲線は()。

(景気過熱時)

- 景気が過熱したときは、「マネー・サプライ」を()させる「縮小的金融政策」(金融引き締め)をおこなう。
→ LM 曲線は()。



★

(5) グラフの領域

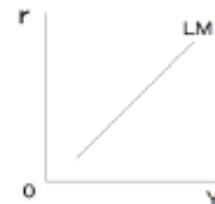
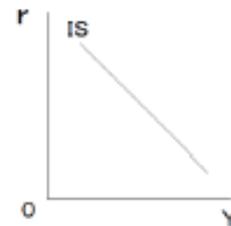
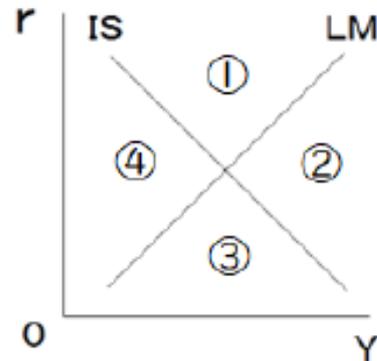
- IS 曲線と LM 曲線の交点以外のエリアでは、不均衡が発生している。

- ① 財市場・貨幣市場は()。

- ② 財市場は()。
貨幣市場は()。

- ③ 財市場・貨幣市場は()。

- ④ 財市場は()。
貨幣市場は()。



【復習】

IS 曲線とグラフの領域

(右下がりの IS 曲線の場合)

- IS 曲線よりも右上→()。
 IS 曲線よりも左下→()。

LM 曲線とグラフの領域

(右上がりの LM 曲線の場合)

- LM 曲線よりも左上→()。
 LM 曲線よりも右下→()。

★

(6) 不均衡の調整

- 不均衡が生じた場合、財市場は()を通じて調整される。
 不均衡が生じた場合、貨幣市場は()を通じて調整される。

クラウディング・アウト

(学習の目的) 財政政策と金融政策の効果を分析します。「クラウディング・アウト」は、財政政策でおこる問題です。

(1) 完全雇用国民所得

- 財政政策や金融政策で、目標とする均衡国民所得水準
→ 労働市場で()が達成されている国民所得水準。
- 完全雇用…()が存在しない状態。
- 非自発的失業…現在の賃金水準で働く意思があるのに雇用されない状態。

(2) 拡張的な財政政策

- 政府支出の拡大や減税などの「拡張的」な財政政策
→ ()が()。

↓

- 国民所得は()、
利子率は()。
→ 確かに国民所得は増加しているが、「クラウディング・アウト」の問題が出てくる。

(3) クラウディング・アウト

- (2) 拡張的な財政政策 → 利子率が上昇。

↓

- 利子率が()しなければ、国民所得はもっと増えたはず
← (理由) 利子率が上昇すると、資金が借りにくくなり、投資に不利になるため。
- このように、政府支出の増大が民間部門の投資を阻害してしまうことを()という。

(4) 拡張的な金融政策

- 拡張的な金融政策
→ ()が()。
- ↓
- 国民所得は()、
利子率は()。
→ 民間の投資は阻害されないため、「クラウディング・アウト」は発生しない。

(5) 縮小的な財政政策

- 縮小的な財政政策 → 利子率が低下。
- 政府支出の縮小や増税などの「縮小的」な財政政策 → () が ()。

↓

- 国民所得は ()、
利子率は ()。

↓

- クラウディング・アウトとは逆の現象がおこる。

→ 利子率が高い水準のまま、減少しなければ、国民所得はもっと減少していたはず。

→ 利子率が () したことで、国民所得の減少分を、一部抑えることができている。

(6) 縮小的な金融政策

- 拡張的な金融政策 → () が ()。

↓

- 国民所得は ()、
利子率は ()。



(7) 財政・金融政策

- クラウディング・アウトを防ぐためには、
→ 利子率を変えずに国民所得のみを増加させる必要がある。

↓

- 財政政策と金融政策を同時におこなう ()。



(8) 国債と財政政策

(国債発行の影響)

□ 財政政策の財源として国債を発行した場合、

- ① 民間が引き受けると、
→ マネーサプライは()。
→ LM 曲線は()。

- ② 中央銀行が引き受けると、
→ マネーサプライは()。
→ LM 曲線は()。



(財政政策の効果)

□ この国債を財源として拡大的な財政政策をおこなうと、
→ IS曲線は()。

- ① 民間が引き受ける場合、
→ 国民所得は()し、
利子率は()する。

- ② 中央銀行が引き受ける場合、
→ 国民所得は()する。

※ 利子率の動きは、
IS曲線とLM曲線のシフト幅によって
変わるため、一概には言えない。

(応用のために)

国際マクロ経済学でまなぶ「IS-LM-BP モデル」(マンデル=フレミング・モデル)では、

- ・資本移動 (資本移動なし or 資本移動あり[完全・伸縮的・硬直的])と、
 - ・為替相場制(固定相場制 or 変動相場制)
- の状況の違いによって、
- ・財政政策 / 金融政策 の効果が変わってきます。

これはかなりややこしいので、前提として IS-LM 分析を理解しておくことが大切です。

流動性のわな

(学習の目的) 「流動性のわな」が発生している場合の財政政策と金融政策の効果を分析します。

(1) さまざまなIS曲線とLM曲線の形状

- 一般的には、IS曲線は右下がり、LM曲線は右上がり
- ↓
- 他の形状についてもみていく必要がある。
- 「利子率に対してどのように反応するか」について考える。

(2) 流動性のわなとは?

(概要)

- 流動性のわな…利子率が()パーセントに近い「きわめて低い」水準にある状態。
- ↓
- 貨幣の「投機的需要」が、利子率に対して()の状態。
(= 貨幣需要の利子弾力性が()。)
- ↓
- 金融政策が()になる。
マネーサプライを増大させる金融緩和政策をおこなっても、貨幣需要にすべて吸収されてしまい、国民所得の増大には結びつかない。

★

(3) 流動性のわなが発生する理由

- 流動性のわなが発生しているとき、LM曲線は()になる。

(理由)

- 利子率が「きわめて低い」水準
(これ以下には下がらない)、
= 債券価格は()に達している
(これ以上は上がらない)。
- ↓
- 人々は()を回避するために、
資産を()で保有しようとする。
- ↓
- 貨幣の投機的需要は利子率に対して()となる。

(4) 金融政策の効果

- 利子率がきわめて低い「流動性のわな」が発生している状態では、金融政策は()となる。

(理由)

流動性のわな…LM 曲線は()。

↓

拡張的な金融政策
→ LM 曲線は()。

↓

均衡国民所得は()。

↓

金融政策→()。

(5) 財政政策の効果

「流動性のわな」が発生している状態で、財政政策は()。

(理由)

流動性のわな…LM 曲線は()。

↓

拡張的な財政政策
→ IS 曲線は()。

↓

均衡国民所得は()。

↓

財政政策→()。

★

(6) 流動性のわなとクラウドイング・アウト

流動性のわなが発生しているとき、財政政策をおこなうと
クラウドイング・アウトは()。
(= は)。

★

(7) 流動性のわなとピグー効果

流動性のわな…一般的に、金融政策は()。

↓

金融緩和 → マネーサプライの増大 → 実質的に物価は下がる。

↓

手持ちの資産の実質的な価値が高まる(= の増加)。

↓

購買力は実質的に高まり、消費が()する。

↓

IS 曲線が()。
→結果的に金融政策が()となることもある。

↓

このような効果を()という。

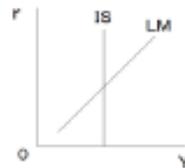
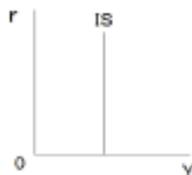
さまざまなケース

(学習の目的) さまざまな形状のIS曲線とLM曲線について確認します。



(1) 投資の利子弾力性がゼロ

□ 投資の利子弾力性がゼロのとき、()は()になる。



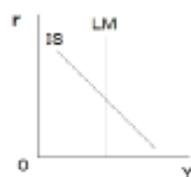
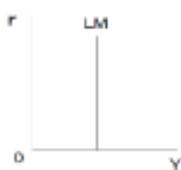
□ 財政政策は
(有効 or 無効)である。

□ 金融政策は
(有効 or 無効)である。



(2) 古典派の貨幣数量説

□ 古典派の貨幣数量説にもとづいたモデルでは、
貨幣需要の利子弾力性は(ゼロ or 無限大)となるため、
↓()は()になる。



□ 財政政策は
(有効 or 無効)である。

□ 金融政策は
(有効 or 無効)である。



(3) 公債の資産効果

□ ()…このモデルでは、公債発行の影響をみる。

① 公債を財源として
(拡張的な財政政策) を実施
→ () は () 。

↓

② 公債を購入した保有者は、
資産が増加したと考えて
(消費を 増加) させる。
→ () は () 。

↓

↓

③ 資産の保有者は、() と () の () を保とうとするために、

↓ () が () する。[←公債より貨幣で持とうとするため]

↓ () が () する。

よって、

↓ () は () する。

[←LM 左シフトで利率が上昇することを図で確認しておきましょう。]

↓

国民所得の増減は、IS 曲線と LM 曲線のシフトの大小によって決まる。

①

IS 曲線のシフト幅 $>$ LM 曲線のシフト幅
のとき、
国民所得は () 。

②

IS 曲線のシフト幅 $=$ LM 曲線のシフト幅
のとき、
国民所得は () 。

③

IS 曲線のシフト幅 $<$ 曲線のシフト幅
のとき、
国民所得は () 。

よって、国民所得の変化については一概には言えない。

